
ANA VISION 2006

第61回 定時株主総会決議
ご通知

第56期 事業報告書

(2005年4月1日～ 2006年3月31日)

株 主 各 位

平成18年6月28日

東京都港区東新橋一丁目5番2号
全日本空輸株式会社
代表取締役社長 山 元 峯 生

第61回定時株主総会決議ご通知

拝啓 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて本日開催の当社第61回定時株主総会におきまして、下記のとおり報告ならびに決議されましたのでご通知申し上げます。

敬 具

記

報告事項

- 第56期（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）連結貸借対照表および連結損益計算書ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 - 第56期（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）営業報告書、貸借対照表および損益計算書報告の件
- 本件は、上記報告事項の内容を報告いたしました。

決議事項

第1号議案 第56期利益処分案承認の件

本件は、原案のとおり承認可決され、利益配当金は1株につき3円とさせていただきました。

第2号議案 定款一部変更の件

本件は、原案のとおり承認可決されました。変更点は次のとおりであります。

- (1)「会社法」（平成17年法律第86号）、「会社法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」（同第87号）及び「会社法施行規則」（平成18年法務省令第12号）等が平成18年5月1日に施行されたことに伴い、以下のとおり当社定款の変更を行いました。
- 取締役会、監査役、監査役会、及び会計監査人を置く旨、当社株式に係る株券を発行する旨及び株主名簿管理人を置く旨をそれぞれ明記（第4条、第7条、第13条）
 - 単元未満株主の権利の内容を定める規定を新設（第11条）

- 株主の権利行使方法等について追記（第14条）
 - 株主総会参考書類等をインターネットの利用により株主の皆様へ提供できるよう規定を新設（第18条）
 - 株主総会における代理人の人数を定めることを可能とする規定を新設（第20条）
 - 必要に応じて書面または電磁的方法による取締役会決議を可能にするための規定を新設（第25条2項）
 - 社外監査役との間に責任限定契約を締結することを可能とするための規定を新設（第36条2項）
 - 会計監査人の選任方法、任期についての規定を新設（第37条から第38条）
 - その他、会社法の施行に伴う根拠法、用語、その他必要な変更を実施
- (2) 将来の事業規模の拡大に備え機動的な資本政策が行えるよう、当社の発行可能株式総数を34億株から39億株に変更いたしました（第6条）。
- (3) 執行役員制度について定款に定める（第28条）とともに、取締役の定員を40名から20名に変更いたしました（第21条）。
- (4) その他、定款全般にわたる規定の構成、字句、条数、項数等の一部変更、及びその他必要な変更を行いました。

第3号議案 取締役15名選任の件

本件は原案どおり承認可決され、取締役に大橋洋治、山元峯生、戸矢博道、大前 傑、北林克比古、久保小七郎、伊東信一郎、長瀬 眞、森本光雄、日出間公敬、岡田圭介、野本明典、伊藤博行、木村 操、森 詳介の15氏が選任され、それぞれ就任いたしました。

以 上

尚、当社定款の詳細は以下のアドレスをご参照ください。

http://www.ana.co.jp/ir/kabu_info/teikan/pdf/060628_teikan.pdf

配当金のお支払いについて

第56期利益配当金の払渡期間は2006年6月29日（木）から同年7月31日（月）まででございますので、同封の「郵便振替支払通知書」により、お近くの郵便局でお受け取りください。

また口座振込ご指定の方は、ご指定口座への入金をご確認いただきますようお願い申し上げます。

株主の皆様へ

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

当社第56期事業報告書「ANA VISION」をお届けするにあたり、ここに謹んでご挨拶申し上げます。

当期は前期に引き続き、収益性を重視した経営を進めてまいりました。燃油費の高騰が続いたものの順調な景気回復にも後押しされ、旅客需要・貨物需要はともに堅調に推移し、売上高は1兆3,687億円、営業利益は888億円といずれも過去最高となりました。しかしながら、企業体質を強化するためバランスシートの改善にも取り組んだこと等から、連結当期純利益は前期並みの267億円にとどまりました。

特集にもあります通り、本年6月2日、当社を含むスターアライアンス加盟10社が成田国際空港第1旅客ターミナルビル南ウイングに集結しました。当社では、競争力の増したアジアのハブ空港にふさわしい路線の再編にも取り組んでいく所存です。

燃油価格の高騰をはじめ外部環境は常に変化していますが、アジアNo.1エアラインに向けて、安全運航を堅持し、環境変化に強い企業体質を築いてまいりますので、株主の皆様におかれましては、変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2006年6月



代表取締役社長

山元 肇生

国内線

(旅客便+貨物便)

路線数……139路線
運航便数……917便/日
提供座席数…210,333席/日

●ANAグループが就航している都市

*IBEXエアラインズ、エア・ドゥ、スカイネットアジア航空とのコードシェア便(※)を含む

国際線

(旅客便+貨物便)

コードシェア便(※)を含む
183路線2,923便/週

グループ運航便:43路線546便/週

提携他社運航コードシェア便:155路線2,377便/週
(ANAまたはANKマーケティング便)

●ANAグループが就航している都市

●コードシェア便が就航している都市

(※)コードシェア(路線提携)とは
提携会社の運航する便に自社の便名(コード)を付与することで、より広範で利便性の高い路線ネットワークを提供するものです。



●表紙の写真

1986年7月26日、日本から初の直行便が就航したワシントンD.C.
2006年7月1日よりボーイング777-300ERが就航予定。

当期の状況

- 当期（2005年度）は、営業収入、営業利益、経常利益において過去最高となりました。
- 主力の航空運送事業では燃油価格の高騰が続く中、コストの抑制等に努めた結果、増収増益となりました。
- 航空運送事業をはじめ、旅行・ホテル・その他の事業の全セグメントで営業黒字となりました。
- 時価発行増資や利益剰余金の増加等により株主資本比率は7.5%上昇し、20.8%となりました。

連結貸借対照表

（単位 億円）

	当期 (2006年3月31日現在)	前期 (2005年3月31日現在)
流動資産	5,303	4,211
現金及び預金	2,344	1,582
営業未収入金	1,133	1,138
有価証券	246	57
たな卸資産	579	526
繰延税金資産	235	256
その他の流動資産	764	651
固定資産	11,354	11,848
有形固定資産	9,274	9,584
建物及び構築物	1,656	1,801
航空機	4,923	4,976
機械装置及び運搬具	168	169
工具器具及び備品	149	160
土地	978	1,096
建設仮勘定	1,396	1,379
無形固定資産	418	376
投資その他の資産	1,662	1,887
投資有価証券	608	682
繰延税金資産	427	468
その他の投資	625	736
繰延資産	10	6
資産合計	16,668	16,066

【資産の部】総資産は前期末に比べ602億円増加しました。主な要因は流動資産の現金及び預金の増加等によるものです。多角化事業の子会社株式の売却や固定資産の減損処理、福利厚生施設の除売却等により資産のスリム化を進めた結果、固定資産は減少しています。

● 連結対象会社の状況

（2006年3月31日現在）

連結子会社 98社（新規連結8社・6社除外）
持分法適用会社 23社（新規連結3社・2社除外）

	当期 (2006年3月31日現在)	前期 (2005年3月31日現在)
流動負債	4,808	5,064
支払手形及び営業未払金	1,707	1,421
短期借入金	86	160
一年以内に返済する長期借入金	957	1,399
一年以内に償還する社債	450	484
賞与引当金	141	132
その他の流動負債	1,465	1,466
固定負債	8,325	8,756
社債	2,400	2,500
長期借入金	4,568	4,878
退職給付引当金	1,073	1,077
その他の固定負債	282	300
負債合計	13,134	13,821
（有利子負債）	(8,463)	(9,422)
少数株主持分	71	102
資本金	1,600	1,072
資本剰余金	1,256	736
利益剰余金	526	312
その他有価証券評価差額金	94	46
為替換算調整勘定	△ 3	△ 16
自己株式	△ 10	△ 8
資本合計	3,463	2,142
負債、少数株主持分及び資本合計	16,668	16,066

【負債の部】借入金の返済や社債の償還、新株予約権付社債の株式転換により有利子負債は前期に比べて959億円減少しました。

【資本の部】資本金・資本剰余金は、新株予約権行使による新株式発行84億円ならびに時価発行増資による新株式の発行966億円等により、合計で1,046億円増加しました。利益剰余金は当期純利益267億円から配当金の支払い等を控除した結果、前期末に比べて214億円増加しました。以上により、株主資本は前期末比1,320億円増加し、株主資本比率は20.8%となりました。

連結損益計算書

（単位 億円）

	当期 (2005年4月1日から 2006年3月31日まで)	前期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
営業収入	13,687	12,928
営業費用	12,799	12,150
営業利益	888	777
営業外収益	144	329
営業外費用	365	454
経常利益	667	652
特別利益	233	21
特別損失	376	216
税金等調整前当期純利益	524	456
法人税、住民税及び事業税	209	345
法人税等調整額	59	△ 169
少数株主利益又は損失（△）	△ 11	10
当期純利益	267	269

次頁事業別セグメント情報をご参照ください。

【営業外収益】前期に比べて184億円減少しています。これは前期まで計上していたエンジンや新型機導入決定に伴う機材関連報奨額の計上を取り止めたことが主な要因です。受取利息・配当金は46億円です。

【営業外費用】支払利息（201億円、前期比9億円の減）等の減少により、金融収支は前期に比べて5億円改善して△164億円となりました。固定資産の除売却にともなう損失は62億円となり前期に比べて88億円減少しました。

【特別利益】主なものは不動産子会社株式をはじめとした投資有価証券売却益186億円等です。

【特別損失】当期より減損会計を適用し、ホテル事業や不動産事業等で減損損失204億円を計上しました。この他、福利厚生施設等の固定資産の除売却損（41億円）や特別退職金（43億円）等を計上した結果、前期比159億円増加しました。

連結キャッシュ・フロー

（単位 億円）

	当期 (2005年4月1日から 2006年3月31日まで)	前期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
1. 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,285	1,490
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 464	△ 1,692
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 31	△ 516
4. 現金及び現金同等物の換算差額	5	4
5. 現金及び現金同等物の増減額	794	△ 713
6. 現金及び現金同等物の期首残高	1,631	2,345
7. 連結範囲変更に伴う影響額	1	△ 0
8. 現金及び現金同等物の期末残高	2,427	1,631

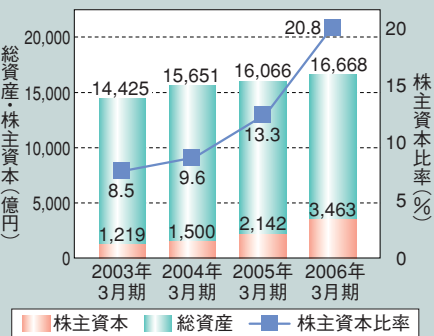
【営業キャッシュ・フロー】航空運送事業を中心に業績が好調に推移したことから税引前当期純利益は前期を上回る水準となりましたが、法人税等の支払いが増加したことなどから、営業キャッシュ・フローは前期に比べて205億円減少しました。

【投資キャッシュ・フロー】当期は15機の航空機導入や今後導入予定機材への前払い等により設備投資額は2,355億円（前期比254億円増）となりましたが、一方で貸付金の回収や航空機等の固定資産や投資有価証券の売却等を行った結果、投資キャッシュ・フローは464億円の支出にとどまりました。

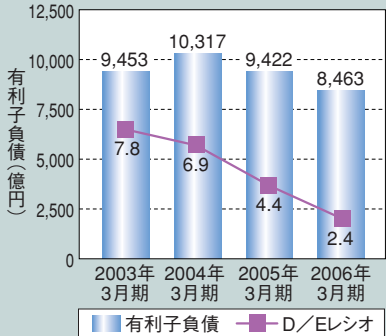
【フリーキャッシュフロー】以上の結果、820億円（前期比1,022億円の増加）を確保しました。

【財務キャッシュ・フロー】社債の償還、借入金の返済等による有利子負債の削減を進める一方で新株式発行や社債発行による計1,306億円の資金調達の結果、財務キャッシュ・フローは31億円の支出となりました。

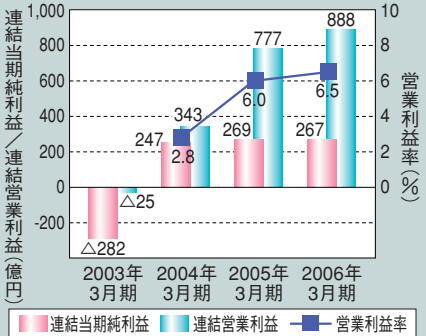
● 総資産・株主資本の推移



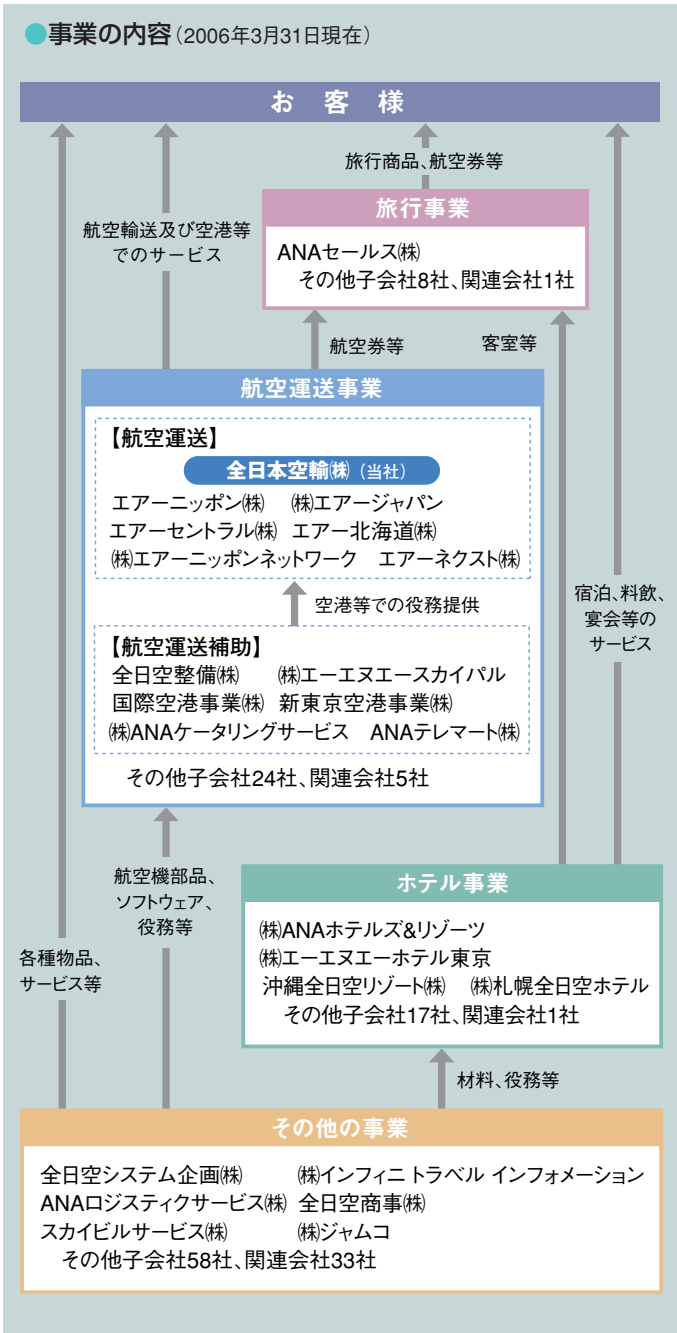
● 有利子負債・D/Eレシオの推移



● 連結営業利益の推移

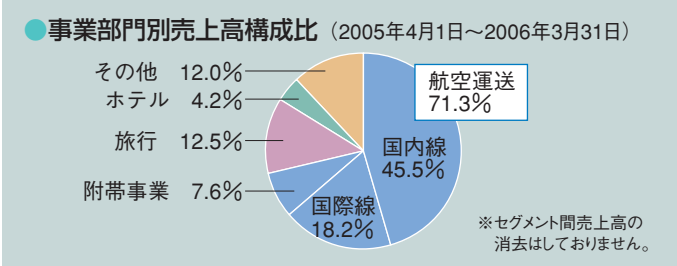


ANAグループ（連結）



事業別セグメント情報 (単位 億円)

		当期 (2005年4月1日から 2006年3月31日まで)	前期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)
航空運送事業	国内線	7,236	6,971
	国際線	2,882	2,641
	その他	1,207	1,056
	営業収入計	11,326	10,669
	営業費用	10,585	9,989
	営業利益	741	680
旅行事業	営業収入	1,994	1,902
	営業費用	1,962	1,871
	営業利益	32	31
ホテル事業	営業収入	663	694
	営業費用	617	699
	営業利益又は損失(△)	46	△ 4
その他の事業	商事・物販	1,269	1,219
	情報通信	260	250
	その他	378	363
	営業収入計	1,909	1,833
	営業費用	1,841	1,763
	営業利益	67	69
営業収入計		15,894	15,100
セグメント間消去		△ 2,206	△ 2,172
連結営業収入		13,687	12,928
営業費用計		15,006	14,324
セグメント間消去		△ 2,206	△ 2,173
連結営業費用		12,799	12,150
連結営業利益		888	777



（営業収入）国内線・国際線事業は旅客・貨物ともに全ての部門で増収となりました。

〈国内線旅客〉景気回復を背景に航空機利用の出張や旅行などの旅客需要が堅調に推移する中で、需要に応じた適正な機材の配置をきめ細かく行うとともに、お客様の多様なニーズに対応するべく「スーパーシートプレミアム」や「スマートeサービス」などの独自のサービスの拡充に努めました。

〈国際線旅客〉中国において期初に発生した反日デモが影響し、旅行需要は低迷しましたが、ビジネス旅客需要は各方面とも期中を通じて好調に推移しました。こうした中でネットワークの拡充や欧米路線のビジネスクラスの増席などの対応に加え、eチケット化の推進やウェブサイトからの予約機能の充実を進め旅客利便性の向上に努めました。

〈貨物・郵便〉国内線・国際線ともに輸送重量は前期を上回りました。とりわけ国際線では、中国発貨物輸送が期中を通じて好調でした。国内では深夜貨物定期便として新たに羽田～関西線、中部～佐賀線を開設しました。機材面ではボーイング767型貨物専用機の2号機・3号機を導入し、羽田～佐賀深夜貨物便に投入したほか、中国・アジア路線にも就航させ集荷を順調に伸ばしました。

（営業費用）燃油価格の高騰に対処するために燃油消費量の節減などに取り組みましたが、燃油費は前期比312億円と大幅に増加しました。一方で運航に係わる費用や販売費用などの抑制に努め、費用の増加を最小限に留めました。

以上の結果、航空運送事業は増収増益となりました。

上期に開催された「愛・地球博」関連の旅行商品をはじめ、国内は沖縄方面、海外はハワイやアジア方面のリゾート旅行需要が活況で、増収増益となりました。

宿泊・料飲収入は景気の回復に加えて、一部ホテルの施設リニューアルも奏功し好調でした。また徹底したコスト削減やイールドマネジメントに取り組み、営業黒字を確保しました。収入はケータリング部門の航空運送事業への移管等に伴い減収となっています。

商事・物販事業においては羽田第2ターミナルや中部新空港での店舗の売上が好調に推移したことなどにより増収となりました。尚、全日空ビルディング(株)売却後、一般向け不動産賃貸事業の利益が消滅したことによる影響で営業利益は減益となっています。

航空運送事業の売上高 (単位 億円)

区 分		事業年度	当期 (2005年4月1日から 2006年3月31日まで)	前期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	増 減
航空運送事業	国内線	旅客収入	6,850	6,587	263
		貨物収入	296	295	1
		郵便収入	85	85	0
		手荷物収入	3	2	0
		小 計	7,236	6,971	265
	国際線	旅客収入	2,292	2,107	184
		貨物収入	553	500	52
		郵便収入	30	28	2
		手荷物収入	5	5	△ 0
		小 計	2,882	2,641	240
	航空事業収入合計		10,118	9,613	505
	その他の収入		1,207	1,056	151
合 計			11,326	10,669	657

(注) 1. 事業区分内の内訳は内部管理上採用している区分によっています。
2. 各事業区分の営業収入は事業区分(セグメント)間の売上高を含んでいます。
3. エア・セントラル(株)は2004年度下期に新規連結されたため、実績は2004年下期分から反映されています。

輸送実績

区 分		事業年度	当期 (2005年4月1日から 2006年3月31日まで)	前期 (2004年4月1日から 2005年3月31日まで)	前年比 (%)
国内線	旅客数(万人)		4,547	4,448	102.2
	座席キロ(千万席キロ)*1		6,097	6,064	100.5
	旅客キロ(千万人キロ)*2		3,971	3,845	103.3
	利用率(%)*3		65.1	63.4	1.7
	貨物輸送重量(千トン)		440	422	104.3
	貨物輸送量(百万トンキロ)		426	409	104.2
国際線	旅客数(万人)		413	411	100.4
	座席キロ(千万席キロ)*1		2,533	2,519	100.6
	旅客キロ(千万人キロ)*2		1,876	1,919	97.8
	利用率(%)*3		74.1	76.2	△ 2.1
	貨物輸送重量(千トン)		248	234	106.1
	貨物輸送量(百万トンキロ)		1,134	1,083	104.7
郵便輸送	郵便輸送重量(千トン)		14	13	103.5
	郵便輸送量(百万トンキロ)		60	59	100.9

(注) *1. 座席キロ：(座席数)×(運航キロメートル)
*2. 旅客キロ：(旅客数)×(運航キロメートル)
*3. 利用率：(旅客キロ)÷(座席キロ)
4. 国内線にはIBEXエアラインズ(株)および北海道国際航空(株)とのコードシェア便実績を含みます。
5. 国際線にはユナイテッド航空(成田～ニューヨーク線、関西～ホノルル線)およびエバー航空とのコードシェア便実績を含みます。
6. 国内線、国際線ともにチャーター便実績を除いております。
7. 国内線深夜貨物定期便実績を含みます。

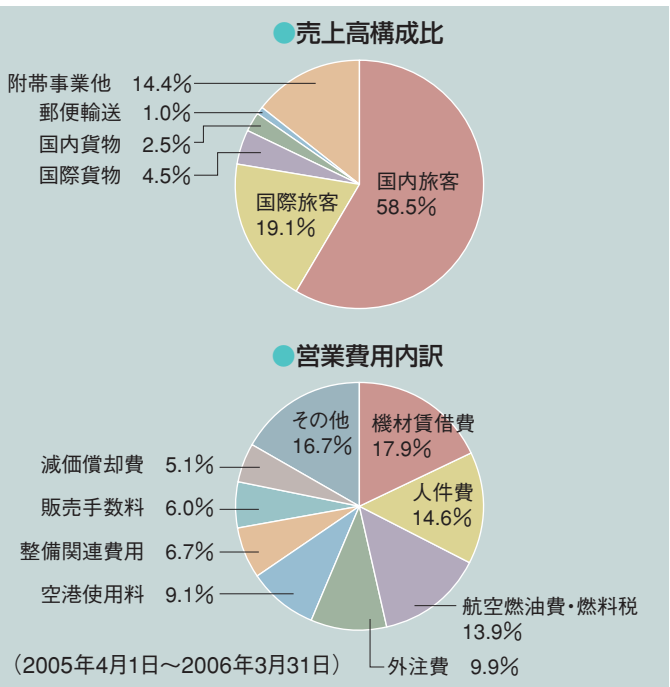
個別財務諸表

ANA (個別)

貸借対照表			(単位 億円)	
	当期 (2006年3月31日現在)	前期 (2005年3月31日現在)		
資産の部				
流動資産	4,545	3,371		
固定資産	10,504	10,115		
繰延資産	6	1		
資産合計	15,056	13,488		
負債の部				
流動負債	3,987	3,659		
固定負債	7,737	7,818		
負債合計	11,724	11,477		
資本の部				
資本金	1,600	1,072		
資本剰余金	1,253	736		
利益剰余金	391	160		
その他有価証券評価差額金	90	44		
自己株式	△ 4	△ 3		
資本合計	3,331	2,011		
負債・資本合計	15,056	13,488		

損益計算書

	当期 (2005年 4月 1日から 2006年 3月31日まで)	前期 (2004年 4月 1日から 2005年 3月31日まで)
営業収入	11,710	11,004
営業費用	11,014	10,361
営業利益	695	643
営業外収益	134	285
営業外費用	322	404
経常利益	508	524
特別利益	167	15
特別損失	205	296
税引前当期純利益	470	242
法人税、住民税及び事業税	143	306
法人税等調整額	45	△ 168
当期純利益	281	104
前期繰越利益	93	56
当期末処分利益	374	160



利益処分

	当期
(1) 当期末処分利益の処分	
当期末処分利益	374
特別償却準備金取崩額	2
合計	377
これを次のとおり処分いたしました。	
配当金(1株につき3円)	58
任意積立金	3
合計	61
次期繰越利益	315
(2) その他資本剰余金の処分	
その他資本剰余金	303
これを次のとおり処分いたしました。	
その他資本剰余金次期繰越高	303

特別償却準備金は、租税特別措置法の規定に基づくものです。

2007年3月期業績見通し

2007年3月期の業績予想について(2006年4月1日～2007年3月31日)

- 当面航空需要は堅調に推移していくことが見込まれる中、連結売上高1兆4,200億円(前年同期比513億円増)を見込んでいます。
- 燃油価格は今後も高騰することが懸念されており、航空部門の営業費用を圧迫する要因となると予想されること等から、連結営業利益は760億円(前年同期比128億円減)となる見通しです。ただし、2006年3月期のように減損会計による特別損失計上の予定がないこと等から連結当期純利益は270億円を見込んでいます。

※算出にあたりましては、米ドル円為替レートを115円、航空燃油費の一指標でありますドバイ原油の市場価格を1バレルあたり55米ドル、シンガポール・ケロシンを1バレルあたり74米ドルとしております。

■連結業績見通し				単位:億円
	2007年3月期 (予想)	2006年3月期 (実績)	増減額	
連結売上高	14,200	13,687	513	
連結営業利益	760	888	△ 128	
連結経常利益	475	667	△ 192	
連結当期純利益	270	267	2	

■個別業績見通し				単位:億円
	2007年3月期 (予想)	2006年3月期 (実績)	増減額	
売上高	12,300	11,710	589	
営業利益	620	695	△ 75	
経常利益	375	508	△ 133	
当期純利益	225	281	△ 56	

■連結業績予想の前提			
2007年3月期		国内線	国際線
提供座席キロ	前年比	100.5%	104.8%
旅客キロ	前年比	97.7%	100.1%

※上記の予想は本報告書作成時点(6月10日)において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本報告書作成時点における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

Q & A

Q 2007年3月期に連結営業利益が減益になるのは?

A 主に燃油費が前期に比べて、大幅に増加する見込みのためです。
当社が航空燃料価格の指標としているドバイ原油価格が2005年3月期は期中平均\$36.6でしたが2006年3月期は同\$53に上昇、以後も下落の兆しが見えないため2007年3月期は\$55で予算を作成しています。6月10日現在、更に上昇し、\$60を超える水準で推移しており、2006年3月期に比べ燃油費は450億円程度増加する見込みです。当社としては、調達価格を平準化させるためのヘッジを引き続き行うとともに、グループをあげてより踏み込んだコスト削減と増収に向けた努力を行ってまいります。自助努力により賄い切れない分につきましては、国際線は昨年3月より、国内線は本年4月より、その一部をお客様にご負担いただいております。

Q 燃油費の増加に対応した具体的な取り組みは?

A 以下の項目について引き続き取り組みを強化していきます。

- エンジンの使用にともない、エンジンの中に埃が溜まることで性能が劣化し、燃費が悪くなります。定期的なエンジンの内部洗浄を徹底することで性能を向上させ、燃費の向上に繋がります。
- 最適な飛行高度や速度により、燃費を向上させ燃油の消費量を節減していきます。
- 機内の座席をはじめ、搭載されている皿・コップなどの軽量化に取り組んでいます。
- 中期経営戦略では大型機の退役を早め、より燃料効率がよく、経済性の高い新機種(ボーイング737-700型機・ボーイング787型機)を積極的に導入していきます。



国際線就航20周年!



ANAグループ社員でつくった「20th (20周年)」の人文字

2006年3月、ANA国際線は定期便の就航から20周年という大きな節目を迎えました。ANAならではのサービスを充実させつつ米国、欧州、アジアへとネットワークを広げた国際線事業。2006年6月には成田空港第1ターミナル南ウイングに、スターアライアンス各社が集結。新たな展開を図るANAの国際線について、北林専務取締役執行役員にインタビューしました。

日米航空交渉によって広がったビジネスの自由度



1986年3月3日 国際定期便初就航!

——ANAが国際線の舞台へ翼を広げて、早20年。国内から海外へ、そのスタートはどのようなものでしたか?

北林 1986年ANA初の国際定期便はグアムに向けて飛び立ちました。しかし、実はその15年前の1971年2月から香港などへの国際チャーター便を飛ばしてきました。こうしてみるとANAの国際線の歴史もずいぶん時を経たなどの想いもあります。



Interview

専務取締役 執行役員 (国際業務室・アライアンス室・IT推進室担当・IT戦略推進委員会委員長)

北林克比古 (きたばやし かつひこ)

●Profile

1946年生まれ。1970年ANA入社。営業本部国際部販売課、東京支店国際販売部長、客室本部客室サービス部長等を経て、2001年6月、取締役執行役員マーケティング室長、2006年4月より現職。

——2番目の定期路線が米国本土。以後は急ピッチでネットワークを広げましたね。

北林 当初は認可が下りれば「すぐに飛ばす」、そんなスタンスで展開してきました。結果デイリー (毎日運航) 化などは難しく、どうしても週2、3便運航というまばらな路線が多く、ビジネスのお客様に利用していただくことに苦労しました。ワシントン線で搭乗率35%なんて数字も記録しましたが、90年代後半ごろから路線網と便数の拡充に伴って知名度もアップし、状況は少しずつ好転していきました。ちなみに今、ワシントン線は非常に好調です。

——国際線のビジネスモデルが確立されたのは、具体的にいつ頃ですか?

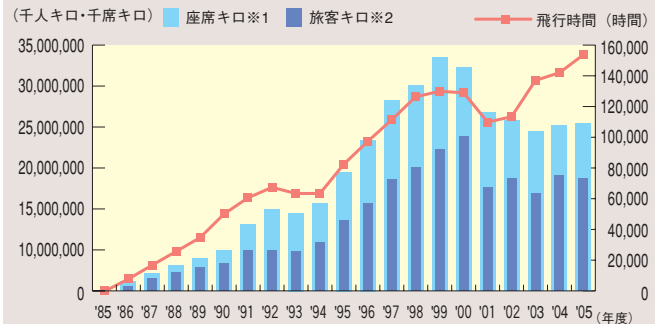
北林 転機は1998年の日米航空交渉で、ANAが念願のインカンバント・キャリア※となり日米間の路線でわれわれの事業計画が主体的に展開できるようになりました。それがきっかけとなり、海外でも一人前の国際線定期便キャリアとして認定されるようになりました。

※インカンバント・キャリア
日米航空協定において日米間、および以遠区間の路線便数を企業の自由意思で設定できる航空会社。日本側は全日空、日本航空、日本貨物航空の3社。米国側はノースウエスト航空、ユナイテッド航空、フェデラルエクスプレスの3社が現時点で該当するエアライン。

——エアラインとして事業の主体性が確立し、さらにビジネスの自由度が広がったということですね。

北林 やはり日米間は巨大なマーケットですからその効果は大変大きかったと思います。さらに、もうひとつ、グローバルアライアンスという潮流にいち早く乗ったこと、具体的には1999年10月に『スターアライアンス』に正式加盟したことが当社の国際線ビジネスに大きな

国際線運航規模の推移



※1: 座席キロ (座席数) × (運航キロメートル) ※2: 旅客キロ (旅客数) × (運航キロメートル)

影響を与えたと思います。

——スターアライアンスへの加盟効果とは?

北林 1社で世界中をくまなくネットワークすることは不可能ですし、グローバルかつ多様化するお客様のニーズに航空会社1社だけでお応えしていくことはもはや難しくなっています。そうした状況をいち早く判断し当社はスターアライアンスに加盟しました。そこでは加盟する各エアラインが培ってきた多様なノウハウが大いに役立つわけです。世界中のエアラインが培ってきた多様なノウハウを結集させてシームレスな (継目のない) サービスを提供することはまさにグローバルマーケティング戦略だと思います。そこで提供される膨大なネットワーク、そこに付随する利便性がANAの国際市場での知名度アップにも貢献しました。

ANA国際線年表 (主な就航路線)

一気に太平洋線に進出

- 3.3 成田～グアム線就航
- 7.16 成田～ロサンゼルス線就航
- 7.26 成田～ワシントンD.C.線就航
- 7.1 成田～ソウル線就航
- 7.14 成田～バンコク線就航
- 11.2 成田～大連線就航

路線拡張の第2ステージは欧州直行便

- 10.4 成田～パリ線就航
- 2.17 成田～フランクフルト線就航
- 3.30 成田～上海線就航
- 3.9 成田～ニューヨーク線就航
- 9.1 名古屋～ホノルル線就航 (2001.10.28休止)
- 12.3 成田～シンガポール線就航

国際線10周年

- 7.16 関西～ヤンゴン線就航 (1998.3.29休止)
- 9.5 関西～ムンバイ線就航 (2001.3.23休止)
- 9.9 関西～ミラノ～ローマ線就航 (1998.10.27休止)
- 10.4 成田～バンコク～デリー線就航 (2001.3.24休止)
- 10.30 成田～ジャカルタ～デンパサール線就航 (1998.8.30休止)



スターアライアンス正式加盟

- 4.13 成田～シカゴ線就航 (2002.1.1休止)
- ※2006.10.29 再開予定

近隣へのネットワーク拡大で競争力を強化

- 3.27 成田～ホーチミンシティ線就航
- 4.25 成田～広州線就航
- 5.16 名古屋～上海線就航

- 4.16 成田～大連～北京線就航
- 4.16 成田～北京線就航
- 7.25 成田～香港線就航
- 10.26 成田～シドニー線就航 (1997.10.27休止)
- 7.16 成田～ウィーン線就航 (当初はモスクワ経由、オーストリア航空等との共同運航)
- 7.22 成田～ロンドン線就航

- 9.4 関西～ソウル線就航
- 9.4 関西～シンガポール線就航
- 9.7 関西～青島線就航
- 10.31 関西～香港線就航
- 11.1 成田～プリズベン～シドニー～成田線就航 (1998.6.27休止)

- 3.26 関西～北京線就航
- 7.21 関西～上海線就航
- 10.31 関西～ロンドン線就航 (2000.10.29休止)
- 12.21 関西～ローマ線就航 (1999.3.29休止)
- 7.1 関西～大連～瀋陽線就航
- 7.2 成田～青島線就航
- 7.20 関西～厦門線就航
- 10.4 成田～ホノルル線就航
- 12.1 成田～サンフランシスコ線就航

- 3.26 関西～ホノルル線就航
- 4.18 成田～厦門線就航
- 3.28 関西～杭州線就航
- 3.28 成田～瀋陽線就航
- 3.29 成田～杭州線就航

★中部国際空港開港

国際線20周年

——アライアンスを活用したマーケティング戦略とは具体的にどのようなものですか？

北林 たとえばAMC(ANAマイレージクラブ)。現在、AMCに1400万人、スターアライアンス加盟各社の会員は1億4000万人。AMC会員の方はスターアライアンス加盟の航空会社でマイルを貯めることも使うこともできます。これは1社ではなし得ない大きな特典といえます。また、加盟各社が有するノウハウやマネージメントの手法が導入できたことが今日に生きています。

——アライアンスはコスト面でもメリットがありますか？

北林 当社がある路線に1便就航したとします。就航先の空港でラウンジが必要になりますが1日1便だけの運航では非常に効率が悪くなります。それをメンバー全体で費用配分すれば大幅なコストダウンにつながるし、逆に同じコストだったら、よりよいグレードのラウンジが確保できます。さらにはデータ通信回線の相互利用や燃料の共同調達などコスト節減効果はあらゆる場面に存在するということです。

FIRST CLASS



New Style, CLUB ANA



Premium Economy



Premium Economy Asia

Economy Class



——定期国際線の運航拡大、あるいはアライアンス各社との交流は、ANA社内の風土等にも影響を与えましたか？

北林 空港、セールスなど、計20にわたる各分野の委員会に全社各部門が出席し、共通の話題を議論することによって、物事を

ANA独自の世界から、グローバルな視点で見られるようになりました。端的に言えば、社内の国際化が進んだといえるところでしょうか。

——ところでANA国際線は収益的にはどうなのでしょう？

北林 国際線をはじめてしばらくは先ほどもお話ししたようにデAILY運航が確保できなかったり、いろいろな要因が重なって一番収益性の高いビジネス旅客の比率が相対的に低く、収益的にきびしかったのですが、2004年度に念願の黒字化を達成しました。2005年度もほぼ同レベルの黒字を維持できています。ポイントはさまざまな運賃でお乗りいただいているひとつひとつのフライトでいかに収益を極大化するかです。そのために高度なイールドマネジメントシステム(お客様の需要動向に合わせ運賃種別ごとに最適な座席配分を実現する『PROS』)の導入やビジネス旅客の要望を徹底的に取り入れ、いつでもANAのビ

ジネスクラスをご指名いただくことを目指す等、プロジェクトを組み収益改善に向けた課題を達成していった成果がようやくでてきたのだと思います。

——20年間という歳月を経て、ANA国際線はどのような変化を遂げましたか？

北林 当初は限られた日本人のビジネスと観光のお客様を中心としたマーケットを開発してきましたが、近年は多様なマーケット、さまざまなセグメントを対象に需要の開拓ができるようになりました。もちろん先ほどお話ししたスターアライアンスの効果も大きいと思いますが、たとえば外国人のお客様は当初はごくわずかでしたが今や路線によっては半分近くに達しているところもあります。これは乗り継ぎ市場のマーケティング活動に力を入れたこと等により、たと

えば米国と中国、東南アジア間を移動される外国人のお客様等の需要を取り込めるようになってきたこともあると思います。また、ご利用いただく日本人のお客様のスタイルも個人でゆったりと旅行をされる方や友人や親戚を訪ねる方など多様化しています。

——今後具体的に力点を置く路線、あるいはエリアはどのあたりですか。

北林 世界で最も航空需要の成長余力が高いといわれているアジア極東地域を拠点とする航空会社であるという利点はこれからも生かしていきたいと思います。中国をはじめ、アジアを中心としたネットワークの強化と拡充、経



6月2日 成田第1ターミナルへスターアライアンス加盟各社が集結

済成長が航空流動を起こすという観点からはインドやロシアも対象になります。一方でスターアライアンス各社のハブ空港、たとえばフランクフルトやシカゴ等を活用し、そこから先へ乗り継いで行かれるお客様の需要の開拓ももっと進めていきたいと思っています。最新のテクノロジーを活用し路線需要を分析、吟味する手法を獲得しました今、かつて撤収した路線を採算路線として復活させる可能性もあるでしょう。

——今春発表した中期経営計画での国際線の位置付けは？

北林 定期国際線事業は20年を経て質、量両面でようやく一人前になったと思っております。6月の成田第1ターミナルへの移転を国際線事業の新たな成長ステージの第一歩と捉え、当社にとっての成長ドライバーである「国際線旅客事業」と「貨物郵便事業」を今後さらにスケールアップさせ、2009年に予定されている羽田空港の再拡張・国際化までにクオリティ、顧客満足、そして株主価値創造という3つの面で「アジアNo.1のエアライン」となるべく努力してまいります。

2003年から導入した国際線貨物専用機もそれまでに10機規模の体制としたいと考えており、今秋からは待望の北米路線も開設する予定です。

——最後に6月2日から稼動を開始した成田空港第1ターミナル南ウイングにスターアライアンス加盟各社が移転したようですが、どのような期待を寄せていらっしゃいますか？

北林 まず、乗り継ぎ時間の圧倒的な短縮。ターミナルが分かれていたパートナーキャリアがひとつにまとまり、サービスの品質も一段とグレードアップします。たとえば北米からアジア、その逆のルートのお客様にとっても利便性、接続性の向上が、新たな需要を取り込めることにつながると期待しておりますし、それは結果として近隣諸国に相次いで完成している巨大ハブ空港への強力な対抗策になると確信しております。

——ありがとうございました。



世界最初のエアライングローバル連盟 スターアライアンス

1997年5月、航空旅客にグローバル、かつスムーズな旅を提供するために航空会社のグローバル連盟として設立。現在18社が加盟し、合計152カ国の842都市へ毎日約1万5千便を運航。2007年には中国国際航空、上海航空が加盟予定。(2006年6月10日現在)

スターアライアンス加盟各社

AIR CANADA
エアカナダ

AIR NEW ZEALAND
ニュージーランド航空

ANA
ANA
bmi
ブリティッシュミッドランド航空

ASIANA AIRLINES
アシアナ航空

Austrian
オーストリア航空

SAS Scandinavian Airlines
スカンジナビア航空

LOT POLISH AIRLINES
LOTポーランド航空

Lufthansa
ルフトハンザドイツ航空

SINGAPORE AIRLINES
シンガポール航空

SOUTH AFRICAN AIRWAYS
南アフリカ航空

Spanair
スパンエア

swiss
スイス インターナショナル エアラインズ

TAP PORTUGAL
TAPポルトガル航空

THAI
タイ国際航空

UNITED
ユナイテッド航空

U-S AIRWAYS
U・Sエアウェイズ

VARIG
ヴァリグ・ブラジル航空

は成田第1ターミナル南ウイング乗り入れ航空会社

6月2日からANAは成田空港第1ターミナルに移転しました。

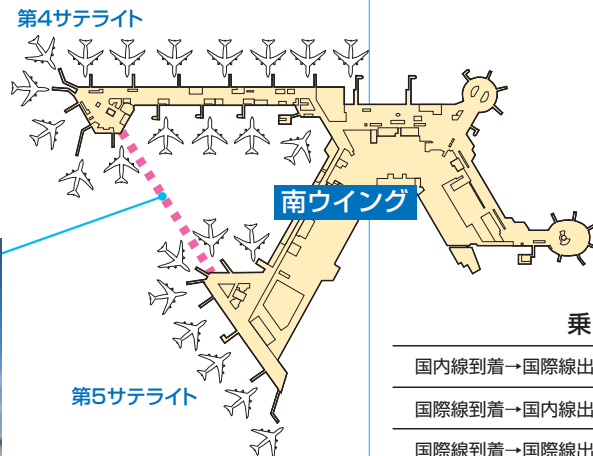
成田空港第1旅客ターミナルに、最新技術を結集した地上5階、地下1階の新南ウイングが登場！
スターアライアンス加盟航空会社が集結し、“簡単で便利な空の旅”をご提供します。



対面するチェックインカウンターをクラス別に「ゾーン」で区分し、スターアライアンス加盟各社と共有化した出発カウンターを展開*

乗り継ぎ時間を大幅に短縮する スーパー地下通路

国際線から国際線への乗り継ぎ旅客は第4～5サテライト間をL字型に移動することになるが、時間短縮のために点線位置に地下トンネルが設置され3～4分での移動が可能に。



混雑時もスムーズ チェックイン

チェックインカウンターから手荷物を運搬するベルトコンベア上で受託手荷物を保安検査するインライン方式を採用。



出国手続き後、出発前のお楽しみ!!

空港としては国内最大の店舗面積。長さおよそ270メートルにおよぶ免税ブランドモール“narita nakamise”には、世界の有名ブランド店や飲食店が大集合!



乗り継ぎ専用カウンターで、海外からの乗り継ぎを一元管理

乗り継ぎ必要時間の短縮

国内線到着→国際線出発	移転前110分	➡	移転後 60 分
国際線到着→国内線出発	移転前130分	➡	移転後 75 分
国際線到着→国際線出発	移転前110分	➡	移転後 45 分

第1ターミナルに乗り入れているスターアライアンス各社運航便での乗り継ぎの場合



搭乗券の受け取りが簡単、スムーズ!

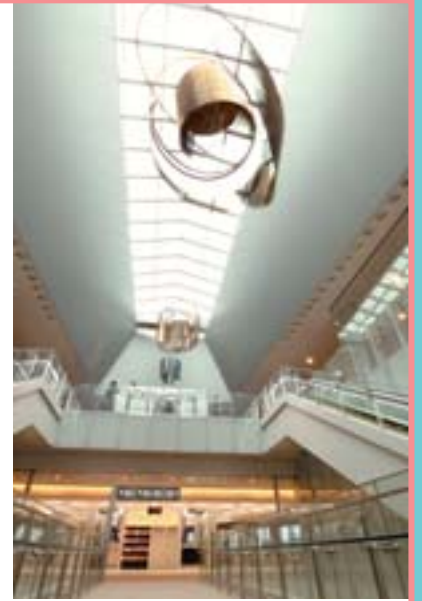
自動チェックイン機にEdy機能付きANAカード、ANAマイレージクラブカード、または「おサイフケータイ®」対応の携帯電話をかざすだけで搭乗券の受け取りが可能。



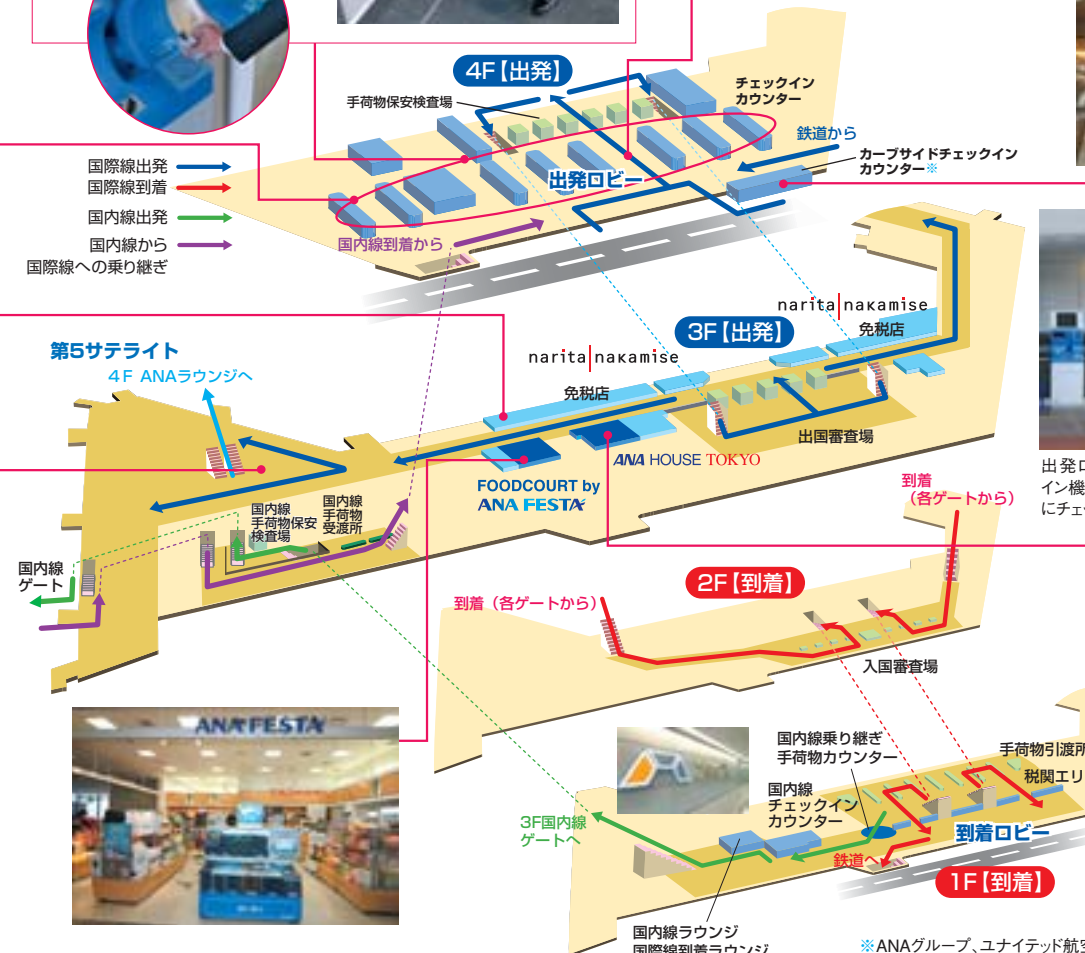
世界最大規模126台の自動チェックイン機設置



Dゾーンの中央部分には12台の自動チェックイン機を集中配備



出発ロビーの車寄せ（カーブサイド）に自動チェックイン機4台を設置。車やリムジンバスで到着してスムーズにチェックイン!



*ANAグループ、ユナイテッド航空、エアカナダ、オーストリア航空運航便で利用可。
利用可能航空会社は順次拡大予定。

2005年度 おもな出来事

4月 25日・成田～広州線就航開始で中国主要9都市をカバー！
28日・2005年3月期決算発表
・全日空ビルディング㈱を株式交換契約により完全子会社とすることを発表（株式交換は2005年10月1日）
・取締役会決議による自己株式取得を発表（5月18日 40万株、5月20日 750万株取得）
・スカイネットアジア航空と業務提携

5月 1日・新デザインの制服で業務開始！
新ユニフォームは『エコマーク』も取得！
12日・“New Style, CLUB ANA♣” バリ線にも導入開始

16日・名古屋～上海線 就航開始！
6月 1日・「AIR NEXT (エアネクスト)」初便就航

・ポーランド航空とコードシェア開始！
7月 12日・航空貨物運送事業の新たな発展に向けて、日本貨物航空株式会社の株式を日本郵船株式会社に譲渡することを決議

8月 1日・羽田～金浦間、1日2便に増便！
10日・「㈱スターフライヤー」との業務提携基本契約を締結
24日・第22回 無担保普通社債発行 150億円
9月 26日・国内線航空券のお支払い期限の変更（12/1ご搭乗分より）を発表

2005

4

5

6

7

8

9

10

11

12

2006

1

2

3

10月 3日・国内線一般席新シートが2005年「グッドデザイン賞」を受賞！

「グッドデザイン賞」を受賞した新シート

20日・日本郵政公社と国際物流分野における戦略的提携を発表
28日・“Premium Economy Asia” 新登場！「名古屋～台北線」に、ボーイング737-700型機投入を発表！

11月 25日・第23回 無担保普通社債の発行 200億円
12月 1日・羽田第2旅客ターミナルビル開業1周年

23日・金色の特別塗装機「ゴールド ジェット」（ボーイング737-700型機）が日本の空にデビュー

1月 30日・国内線全路線に、新割引運賃「旅割」登場！
31日・『2006～2009年度中期経営戦略』を発表
2月 1日・『株式会社ANA&JPエクスプレス』設立
14日・新株式発行並びに株式売出に関する決議
一般募集及び第三者割当による新株式発行2億5千万株
16日・神戸空港「マリンエア」開港
23日・全日空ビルディング㈱の全株式をオリックス㈱へ売却
3月 1日・新株式の発行価格および売出価格等決定（1株につき403円）
3日・国際線就航20周年

9代目CA制服

“New Style, CLUB ANA♣”

当社山元社長（左）、日本郵政公社生田総裁（右）

“Premium Economy Asia”

羽田第2旅客ターミナルビル開業1周年

ゴールド ジェット

神戸空港「マリンエア」

情報ダイジェスト 2006年4月～2006年5月

4月 3日『株式会社ANA総合研究所』を設立
2004年、社内に設置した『ANA総合研究所』の機能を強化し、法人として設立。従来にない航空サービスや新しいビジネスモデルなどを調査・研究・開発していく。
【概要】代表取締役社長 浜田 健一郎／資本金:3,000万円
出資比率:ANA 100%

18日 スイス インターナショナル エアラインズとのコードシェア提携の開始を発表
6月2日から東京～チューリッヒ間（週6便）に利便性の高いダイヤを提供。相互にネットワークの拡充を図る。
※マイレージプログラムは4/1より提携開始

20日 携帯電話サイト『ANA SKY MOBILE』でも国際線航空券の購入が可能に！
■国際線ページの機能について
対象路線：全てのANA/ANK国際線直行便（コードシェア便含む）
対象人数：最大 大人4名（お子様も含む）と幼児4名
対象運賃：普通運賃・ビジ割・エコ割
申し込み（購入）期限：搭乗日前日の23:59まで
決済方法：クレジットカード決済のみ
その他：機内サービス、空港アクセス、各地の天候情報等も閲覧可能
シートマップの閲覧、座席指定も可能

25日 上海～西安線でコードシェアを開始
ANAと上海航空は成都・重慶・深圳に西安を加えた4都市と、上海を結ぶ国内線で共同運航を実施。

26日『株式会社NARP』へ資本参画
総合人材サービスを手掛ける㈱パソナのグループ会社、㈱NARPの経営に参画。シニア世代をターゲットにした生活支援サービスの企画、提供を目指す。

28日 2006年3月期決算発表
詳細は5～10ページ参照。

5月 1日『株式会社ANAグランドサービス』を設立
2009年の羽田再拡張・国際化を見据え、高品質なサービス提供とコスト競争力のある体制を構築していく。営業開始は2006年8月の予定。
【概要】代表取締役社長 日高 誠一郎／資本金:3,000万円
出資比率:ANA95%、新東京空港事業株式会社5%

10日 上海航空が『スターアライアンス*に加盟』方針を発表

16日 国内線で新搭乗サービス「スキップサービス」の開始を発表！
本年9月1日より、“チェックイン不要”で、ご搭乗いただける「スキップサービス」を順次開始予定（全面展開は2007年度中の予定）。このサービスはANAホームページ、旅行会社、ANAカウンターなどで事前に予約・決済・座席指定といった「指定席予約決済」をお済ませのお客様は保安検査場にて「スキップリーダー」にICカード・2次元バーコード等をかざし、出発時刻の10分前までに搭乗ゲートにお越しただければ、スムーズにご搭乗が可能に。

出発前までに

搭乗

空港で

新サービス「スキップサービス」

「指定席予約決済」予約・決済・座席指定

チェックイン不要

保安検査場にてANA ICカード/2次元バーコードをかざして通過し、搭乗ゲートへ（10分前）

メールインフォ（メール情報提供サービス）

■新規空港設置機器（イメージ）

保安検査場通過機器「スキップリーダー」

搭乗ゲート通過機器

■スキップサービスご利用媒体

IC機能（Edy）付きANAカード
IC機能（Edy）付きANAマイレージクラブカード

おサイフケータイ®（IC付き携帯電話）

航空券ご利用案内書2次元バーコード

携帯電話で取得した2次元バーコード

※「おサイフケータイ®」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。

22日 中国国際航空が『スターアライアンス*に加盟』方針を発表

30日 第4回『私の青空』国際環境絵本コンクール募集開始！
「環境」をテーマとした絵本の作品を募集。
詳細はURL: www.ana.co.jp/ana-info/ana/ehonvol04/index.html

*スターアライアンス詳細は13ページに記載
2007年末までに、中国国際航空および上海航空が加盟し、20社となる予定。

17

18

会社概要 (2006年3月31日現在)

商号	全日本空輸株式会社
	All Nippon Airways Co., Ltd.
設立	1952年12月
本社所在地	東京都港区東新橋一丁目5番2号
資本金	1,600億128万4,228円
従業員数	12,523名

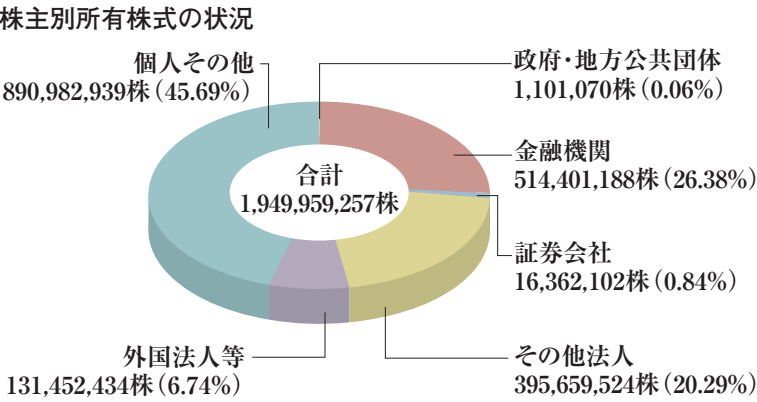
役員 (2006年6月28日現在)

代表取締役会長	大橋 洋治	
代表取締役社長	山元 峯生	
代表取締役副社長 執行役員	戸矢 博道	
	大前 傑	
専務取締役 執行役員	北林 克比古	
	久保 小七郎	
	伊東 信一郎	
常務取締役 執行役員	長瀬 眞	
	森本 光雄	
	日出間 公敬	
取締役 執行役員	岡田 圭介	
	野本 明典	
	伊藤 博行	
取締役	木村 操 (社外)	森 詳介 (社外)
常勤監査役	梶田 邦孝 (社外)	小野 紘一郎
	高田 正彦	
監査役	松尾 新吾 (社外)	南山 英雄 (社外)
上席執行役員	日高 誠一郎	大西 準次
	四十物 実	菊池 克頼
	牧 信介	山内 純子
	浅川 修	
執行役員	高橋 篤郎	篠辺 修
	中村 克己	井上 伸一
	山崎 邦生	浅生 岳
	軸丸 裕典	竹村 滋幸
	中村 昭彦	柴田 司
	丸山 賢二	太田 光彦
	佐藤 透	丸山 芳範
	殿元 清司	

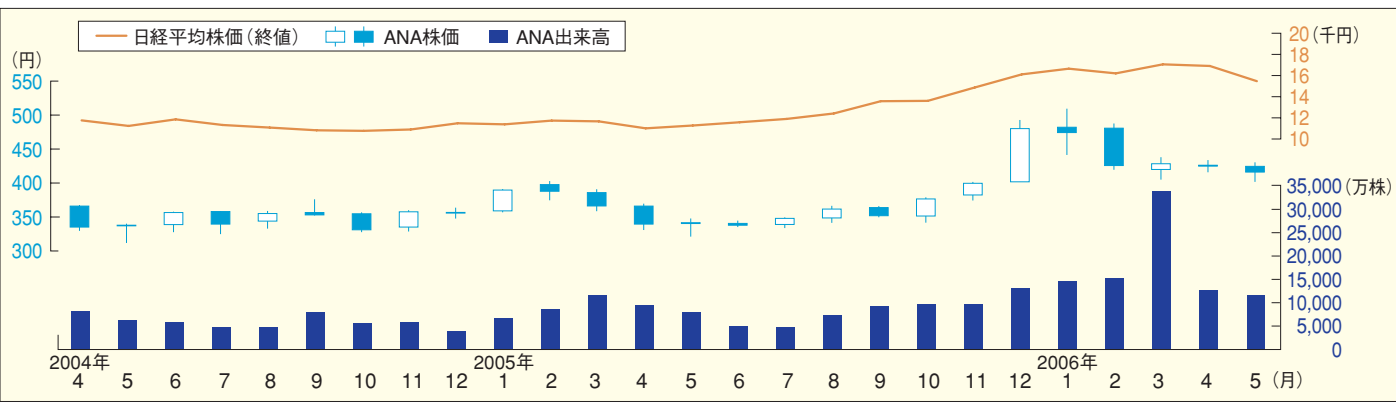
株式の状況 (2006年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	34億株
	※2006年6月28日より、発行可能株式数は34億株から39億株に変更
発行済株式総数	19億4,995万9,257株 (前期末比2億7,715万4,830株増)
	発行株式数の増加は新株予約権の行使、および新株式の発行によるもの
株主数	285,989名 (前期末比62,600名増)

(千株未満切り捨て)			
大株主	株主名	所有株式数	持株比率
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	63,725千株	3.27%
	名古屋鉄道株式会社	51,982千株	2.67%
	東京海上日動火災保険株式会社	43,397千株	2.23%
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	37,958千株	1.95%
	三井住友海上火災保険株式会社	34,770千株	1.78%
	日本生命保険相互会社	30,713千株	1.58%
	全日空社員持株会	29,764千株	1.53%
	ゴールドマン・サックス・インターナショナル	28,444千株	1.46%
	株式会社みずほコーポレート銀行	25,511千株	1.31%
	株式会社朝日新聞社	24,518千株	1.26%



日経平均株価・株価・売買高の推移 (東京証券取引所) (2004年4月～2006年5月)



Aircraft ANAグループ 空を演出するフリート (2006年3月31日現在)

●ボーイング747-400 (23機) 全幅64.4m・(-400D 59.6m)・全長70.7m・全高19.4m 航続距離12,370km (-400D 3,830km) 装備座席数323席 (-400D 569席)		●ボーイング737-700 (4機) 全幅35.8m・全長33.6m・全高12.6m 航続距離4,900km 装備座席数136席	
●ボーイング777-300 (10機) 全幅60.9m (-300ER 64.8m)・全長73.9m・全高18.5m 航続距離3,760km (-300ER 13,920km) 装備座席数525席 (-300ER 269席)		●ボーイング737-500 (25機) 全幅28.9m・全長31.0m・全高11.1m 航続距離2,780km 装備座席数133席	
●ボーイング777-200 (20機) 全幅60.9m・全長63.7m・全高18.5m 航続距離4,300km (-200INT 8,740km/-200ER 13,400km) 装備座席数382席 (-200INT 294席/-200ER 234席)		●ボーイング737-400 (1機) 全幅28.9m・全長36.4m・全高11.1m 航続距離1,550km 装備座席数170席	
●ボーイング767-300 (54機) 全幅47.6m・全長54.9m・全高15.9m 航続距離3,370km (-300ER 10,500km) 装備座席数288席 (-300ER 214席)		●ボンバルディアDHC-8-400 (11機) 全幅28.4m・全長32.8m・全高8.3m 航続距離2,020km 装備座席数74席	
●ボーイング767-300F (3機) 全幅47.6m・全長54.9m・全高15.9m 航続距離5,970km (最大積載時) ※貨物専用機		●ボンバルディアDHC-8-300 (5機) 全幅27.4m・全長25.7m・全高7.5m 航続距離1,000km 装備座席数56席	
●エアバスA321-100 (7機) 全幅34.1m・全長44.5m・全高11.8m 航続距離3,150km 装備座席数195席		●フォッカー50 (4機) 全幅29.0m・全長25.25m・全高8.32m 航続距離2,252km 装備座席数50/56席	
●エアバスA320-200 (28機) 全幅34.1m・全長37.6m・全高11.8m 航続距離2,380km 装備座席数166席		合計196機 ※リース賃借機を含みます。 ※上記のほか、デハビランドDHC-6-300型1機を合計数に含んでいます。	

株主優待のご案内

発行基準日※	(発送日)	①ご搭乗優待	②グループ優待
3月31日	(5月下旬発送)	株主優待券 有効期間6/1～翌年5/31	ANAグループ優待券上期分 有効期間6/1～11/30
9月30日	(11月下旬発送)	株主特別優待券 有効期間12/1～翌年5/31	ANAグループ優待券下期分 有効期間12/1～翌年5/31

①国内線ご搭乗優待 「株主優待券」「株主特別優待券」

優待券1枚で、ANA国内営業全路線片道1区間を、ご搭乗時片道(普通)運賃(小児の場合は小児運賃)の50%割引でご利用になれます。

*スーパーシートプレミアムには、優待券のご利用で別途株主様向けの運賃がございます。

*ご予約、空席、運賃等に関しましては、国内線予約・案内センターまたは、ANA SKY WEB (www.ana.co.jp) にてご照会ください。

*株主優待割引利用時のANAマイレージクラブにおける積算マイルは、区間マイルの75%となります。

*有効期間内は利用制限期間はありません。

●株主優待券・株主特別優待券 発行枚数表 (1枚未満の端数は切り捨て)

ご所有株式数		【発行基準日 3月31日】 株主優待券 (5月下旬発送) 6/1～翌年5/31まで有効	【発行基準日 9月30日】 株主特別優待券 (11月下旬発送) 12/1～翌年5/31まで有効
1,000株 ～	1,999株	1枚	1枚
2,000株 ～	2,999株	2枚	2枚
3,000株 ～	3,999株	3枚	3枚
4,000株 ～	9,999株	4枚＋4,000株超過分 2,000株毎に1枚	4枚＋4,000株超過分 2,000株毎に1枚
10,000株 ～	999,999株	7枚＋10,000株超過分 4,000株毎に1枚	7枚＋10,000株超過分 4,000株毎に1枚
1,000,000株 ～		254枚＋1,000,000株超過分 8,000株毎に1枚	254枚＋1,000,000株超過分 8,000株毎に1枚

②ANAグループ優待券

3月31日・9月30日で 1,000株以上ご所有の株主様へおひとり様1冊発行いたします。

国内ANA HOTELSのご優待

- ・ANA HOTELS宿泊 (30%割引券) 3枚
- ・日曜・月曜宿泊 (50%割引券) 3枚
- ・成田全日空ホテル宿泊 (50%割引券) 2枚 ほか
- ・レストラン・バー飲食 (10%割引券) 5枚
- ・ご婚礼優待 ※一部適用対象外のホテルあり

国内・海外パッケージツアー商品のご優待

- ・ANAスカイホリデー (国内) 商品 (7%割引券) 2枚
- ・ANAハローツアー (海外) 商品 (7%割引券) 2枚

株主の皆様へお知らせ

配当金のお受け取りのご案内

- 「郵便振替支払通知書」をお受け取りの方は**2006年7月31日 (月) まで**にお近くの郵便局にて届出印押印の上お受け取りください。2006年8月1日以降は郵便振替支払通知書の表面の「受領者印章」欄にお届出印を押印いただき、裏面に受取方法をご記入の上、株主名簿管理人 (住友信託銀行証券代行部) までご送付ください。

- 「利益配当金計算書および配当金振込先について」をお受け取りの方は記載の指定銀行または郵便局口座へお振り込みいたしましたのでご確認くださいませようお願いいたします。

※優待券発行基準日

新規に株式を購入される方は、発行基準日 (3月31日・9月30日) の5営業日前までに証券会社にてご購入手続きをお済ませください。
次回 (2006年11月発行分) は、**2006年9月25日 (月)**、2007年5月発行分は**2007年3月26日 (月)** が権利付最終日となります。

全日空商事お買い物ご優待

- ・空港売店 (10%割引券) 5枚
- ・通信販売カタログ商品 (7%割引券) 5枚

「武蔵の杜カントリークラブ」ゴルフプレー料金のご優待

- ・一般ビジター料金割引券 4枚

〒350-0407 埼玉県入間郡越生町上谷1028

☎049-292-6311

http://www.mm-cc.co.jp

★配当金支払方法につきまして郵便局にて現金でお受け取りになる方法のほかに、銀行口座、または郵便貯金口座への振り込みサービスを行っています。同封いたしました「配当金振込指定書」に記載の上、投函願います。このサービスをご利用になりますと郵便局で郵便振替支払通知書と配当金を引き換える必要がなくなります。詳しいお手続き方法等は下記住友信託銀行証券代行部までお問い合わせください。

※尚、今回お申し込み分は次回の配当金よりお振り込みサービスが開始されます。

【お申し込み・お問い合わせ】

住友信託銀行証券代行部 0120-176-417 (平日9:00～17:00)

ANAインターネットホームページ

国内線、国際線の予約、運航案内、発着案内、ANAからのお知らせ、キャンペーン最新情報などを掲載

ANA SKY WEB
www.ana.co.jp

投資家情報もホームページでご覧になれます!

ANA SKY WEB

投資家情報 www.ana.co.jp/ir

※2006年4月1日よりリニューアルしました。



国内線 ANA国内線予約・案内センター

☎0120-029-222 24時間受付 年中無休 Vナビ

〈有料〉0570-029-222 (携帯電話の場合)

東京 ☎03-6741-8800 大阪 ☎06-7637-8800
札幌 ☎011-726-8800 名古屋 ☎052-962-6211
福岡 ☎092-752-8800 沖縄 (那覇) ☎098-861-8800

22:00～6:30および電話が込み合っている場合はVナビ (音声自動応答システム) でご案内いたします。

おからだの不自由なお客様のためのご相談窓口

ANAスカイアシストデスク ☎0120-029-377

FAX ☎0120-029-366 9:00-17:00 年中無休

サービスについてのご意見・ご要望窓口

ANAカスタマーデスク ☎0120-029-787 9:00-17:00 土日祝

国際線 ANA国際線予約・案内センター

☎0120-029-333 8:00-19:00 9:00-17:00 年中無休

〈有料〉0570-029-333 (携帯電話の場合)

ANA HOTELS (国内) のご予約・ご案内

☎0120-029-501 9:00-17:30 9:00-17:00 日祝

www.anahotels.com/ir/

ANAハローツアーのご予約・ご案内

ANAハローツアー 株主優待デスク

中国方面 ☎0120-747-073 ☎03-6251-8678 9:30-18:30 9:30-17:30 平日 土日祝

それ以外の方面 ☎0120-747-860 ☎03-6251-8644 9:30-18:30 9:30-17:30

ハローお出かけダイヤル

0570-025860 市内通話料金だけでご利用になれます。 9:30-18:30 9:30-17:30

☎03-6251-8688

ANA旅行総合サイト「A TOUR」 www.atour.co.jp

ANAスカイホリデーのご予約・ご案内

ANAスカイホリデー予約センター

東京 ☎03-6251-8600 大阪 ☎06-6375-8600

名古屋 ☎052-972-8600 札幌 ☎011-222-8600

広島 ☎082-511-8600 仙台 ☎022-263-8600

沖縄 (那覇) ☎098-862-8600 福岡 ☎092-720-8600

※地区により営業時間は異なります。

ANA旅行総合サイト「A TOUR」 www.atour.co.jp

通信販売のお申し込み・お問い合わせ

全日空商事 ANA SKY SHOPコールセンター

☎0120-283-250 ☎03-3769-2876 9:00-19:00 9:00-17:00 平日・土・日・祝

株主メモ

- 事業年度……………毎年4月1日から翌年3月31日
- 定時株主総会……………毎年4月1日から3か月以内に開催
- 基準日……………定時株主総会権利行使確定日 3月31日
期末配当金受領確定日 3月31日
※中間配当金制度は採用しておりません。
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主優待券割当確定日 毎年3月31日及び9月30日
- 単元株式数……………1,000株
- 株主名簿管理人……………住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱所……………東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- 郵便物送付先……………〒183-8701東京都府中市日鋼町1番10
- 電話照会先(通話料無料) ……[住所変更等用紙のご請求] ☎0120-175-417 (24時間自動音声対応)
[その他のご照会] ☎0120-176-417 (平日9:00~17:00)
※お届印の変更、名義書換、配当金など、その他株式に関するお問い合わせも、
上記の[その他のご照会]住友信託銀行株式会社証券代行部にご連絡ください。
- ホームページ……………<http://www.sumitomotruster.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
- 同取次所……………住友信託銀行株式会社全国本支店、大和証券株式会社全国本支店、
日本証券代行株式会社全国本支店
- 名義書換手数料……………無料
- 公告の方法……………当社のホームページに掲載します。〈<http://www.ana.co.jp/ir>〉
ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。
- 上場証券取引所……………東京証券取引所、大阪証券取引所、ロンドン証券取引所
- 証券コード……………9202

株主インフォメーション

- 第57期第1四半期報告書(2006年4月1日~2006年6月30日)の送付:3月末現在の全株主様に9月初旬頃に発送予定です。
- 単元未満株式買取・買増請求:お手続きの詳細は、当社ホームページに掲載しておりますのでご利用ください。
投資家情報(<http://www.ana.co.jp/ir>)—各種手続きのご案内●単元未満株式
※買増請求は2006年9月13日~2006年9月30日については受付停止期間となっておりますのでご注意ください。

発送物は株主様のご登録住所に発送いたします。お引越しや住居表示(町名や番地など)が変更された場合にはお手続きが必要となりますので上記住友信託銀行株式会社証券代行部までご連絡ください。お手続きの用紙をお送りいたします。ご連絡をいただきませんと、優待券などの大切な送付物がお届けできなくなりますのでお早めにお手続きください。

尚、証券保管振替制度をご利用の場合は、住所変更、買取・買増請求ともにご預託の証券会社へご連絡願います。

全日本空輸株式会社

〒105-7133 東京都港区東新橋一丁目5番2号

総務部 株式担当 ☎03-6735-1001 (受付時間 平日9:00~12:00/13:00~17:25 ※但し金曜日は17:20迄/土・日・祝休)

ホームページ <http://www.ana.co.jp>



R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています